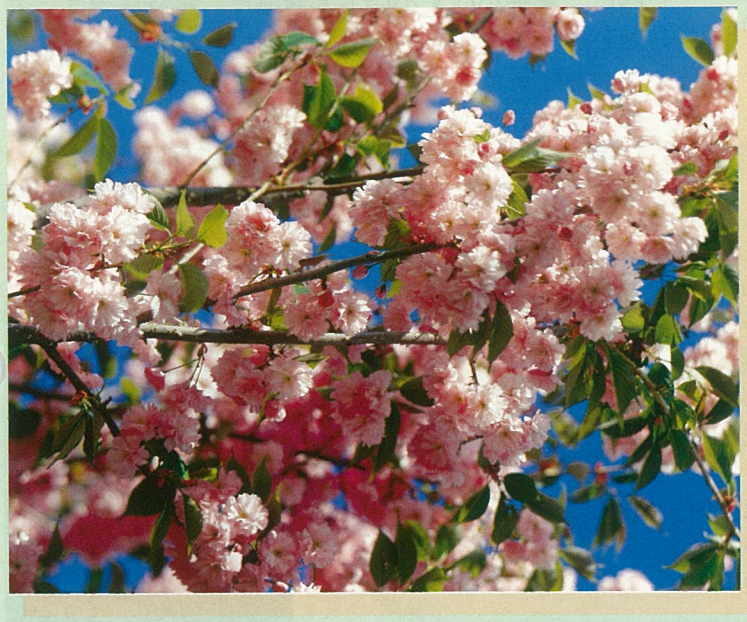
駒の館だより

明治国際医療大学図書館報

第28号
平成21年3月1日　発行

明治国際医療大学附属図書館
〒629-0392 京都府南丹市日吉町
TEL.0771－72－1181㈹



目　次

① 外国語との付き合い方　中尾　昌宏
②③ 自著を語る
慢性疼痛の理解と医療連携　北出　利勝
補完代替医療　鍼灸　篠原　昭二
よくわかる排尿トラブルの対処法　本城　久司
四肢のモーション・パルペーション　中川　貴雄
④ 特別寄稿1
学習について再考　藤田　峯子
⑤ 特別寄稿2
「第29回北京オリンピック
競技大会柔道競技に参加して」　林　弘典
⑥⑦ 新着図書案内一覧　附属図書館
⑧ 図書館からのお知らせ／編集後記　〃

外国語との付き合い方

附属図書館長　中尾昌宏

医学情報を入手したり研究成果を発表するために、英語は今や必須の手段になっている。しかし忙しさにかまけて勉強しないため自分の英語力は遅々として上達せず、いらいらする日々が続いている。語学を専門とする言語学者はいったい何を考えどのような勉強をしているのか、自分の英語力を要領よくレベルアップする方法はないのか、千野栄一著「外国語上達法」岩波新書、鈴木孝夫著「日本人はなぜ英語ができないか」岩波新書、黒田龍之助著「語学はやり直せる！」角川oneテーマ21などを読みながら考えてみた。

英語の勉強に参考となる内容を要約すると、外国語の習得に一番重要なのは目的である。どの言語を、何のために、どのレベルまで上達させるのかはっきりさせることによって、その勉強方法が決まってくる（千野氏）。語学の習得には時間がかかる（千野氏、黒田氏）。もっとも有効な勉強法は、英語で書かれたものをたくさん読むことである（鈴木氏、黒田氏）。その際に欧米で出版されたものは内容を理解するのが難しいため、日本で発刊された英字新聞を読むのが一番いい（鈴木氏）。語彙の習得に終わりはない（黒田氏）。良い語学書、良い辞書、良い教師が重要である（千野氏）。会話上達のためには、大きな声で音読をする（鈴木氏）。日々目につく物事を英語になおす癖をつける（鈴木氏）。多言語学習によって語学に取り囲まれた日々をすごすと英語も上達する（黒田氏）などが挙げられる。それぞれ納得する内容だが確実には実行しづらく、急な上達は難しいことがよく分かった。

近年英語は他国と意志の疎通をはかるための国際補助語になっている。またインドやシンガポールでは独自の英語が発達してきている。なにもアメリカ人やイギリス人と同じ英語を書いたり話したりする必要はない。日本人も日本から情報を発信するための日本式英語を生み出せばいいという意見（鈴木氏）には、多少安心させられる。また欧米の雑誌に論文を投稿すると、編集部で英語まで直してくれることが多い。従って論文は意味が通る程度に完成しておけばいいのである。今しばらくは細々と自分なりの方法で英語とお付き合いし、自分式の英語で情報発信するしかないだろうと考えている。

メボウキ（バジル）

学名　Ocymum Basilicum L.
シソ科

丈が１５cmから５０cmほどのごく小さい茂みをなす草で、葉には細かいギザギザがあり、花は白っぽい花かピンク色の花を咲かせ、内・外唇形の花弁をもつ花冠になっています。

（効能）
神経質・呼吸困難・頭痛・せき・口内炎・等に効きます。

自著を語る

『慢性疼痛の理解と医療連携』

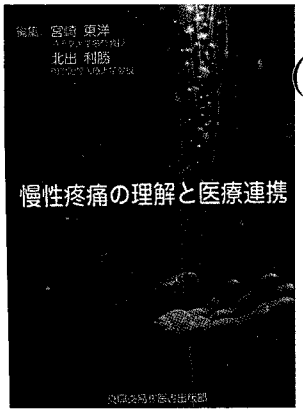
編集：宮崎東洋、北出利勝
執筆者；62名
（本学執筆者；7名）
真興交易医書出版部
2008年刊 B5判,
全331ページ

鍼灸学部
基礎鍼灸学ユニット
北出利勝

慢性になった痛みの症状を生ずる疾患は、実に多種多様であり、治療にかかわる診療科も多岐にわたります。慢性疼痛へのアプローチは痛みの器質的な原因だけでなく、心理的・社会的な問題も含めて様々な要因が関与していることから、本来、連携医療、学際的医療が必要とされている領域です。また、原因疾患の治療は別として、現状では、必ずしも患者の生活の質（QOL）の向上が考慮されているとはいい難い状況にあります。わが国では連携医療が近い将来の課題と思われます。

本企画は、日本慢性疼痛学会の長年に亘る活動が、様々な診療科、コメディカルの垣根を越え、慢性疼痛の機序の解明と治療に貢献してきた実績を、第35回日本慢性疼痛学会での大会テーマを基に、今後の研究・診療の布石となるようまとめたものです。本書では、特に、患者のQOLの向上を念頭に、慢性疼痛を生ずる原因を探り、関連する領域の執筆者が、連携して臨床での症例に対処する指針となることを目標としています。

第1章に慢性疼痛疾患の病態を深く理解するため、代表される疾患を例に挙げ概観しました。第２章に慢性疼痛の発症機序に関する基礎研究を取り上げ、治療方法との関連を示唆いたしました。第３章に、慢性疼痛治療の臨床について、様々な治療方法を取り上げました。第４章に、第3で述べた治療を行うにあたり、各診療科、コメディカル領域の得意とする医療技術と効果を上げる連携医療について考えました。



「補完代替医療　鍼灸」

篠原昭二著　金芳堂
2007年刊 206p 21cm

鍼灸学部
伝統鍼灸学ユニット
篠原昭二

本書は金芳堂の補完代替医療シリーズの一つとして2007年6月15日に出版されたものである。本書をまとめるに当たって、大学で行っている東洋医学概論、鍼灸診断学、伝統鍼灸学特論など、一連の基礎から臨床にわたる内容を分かりやすくまとめることができないものかどうかに主眼をおいて執筆した。とくに、基礎理論の中で陰陽五行説や臓腑経絡説は、荒唐無稽な観念論と誤解される向きがあるが、臨床に照らして眺めると、非常に合理的な学説であることが納得される。そこで随所に具体的な臨床症例やコラムを挿入して、理解しやすいように配慮した。

また、臨床方式としての現代的病態把握にもとづく方法、中医鍼灸、経絡治療の特徴についても解説した。中でも、肩こり、腰痛、膝痛、心身症については、より詳細な病態分類と治療法について解説している。そして、3―4年間の鍼灸教育機関（期間）の中で、鍼灸医学の診断から治療に至る過程をいかに学修するかという観点から、現代的・中医学・経絡治療の三者の臨床のベースとなっている臓腑病の有無、経脈の異常の有無、経筋病の有無、外感病の有無の４つの観点からアプローチする方法について紹介した。

最初から読破するのではなく、気が向いたところから読み進めていけば、東洋医学的な鍼灸の世界を垣間見ることができるのではないかと自負している。

関連する著書（自著）としては、誰でもできる経筋治療（医道の日本社、2005年刊）、ビギナーズ鍼灸・HARIナビ（ヒューマンワールド、2008年刊）なども参照されたい。

『よくわかる排尿トラブルの対処法』

三木恒治・中尾昌宏編
昭和堂（京都）
2008年刊　127p 21cm
¥1,890

鍼灸学部
臨床鍼灸学ユニット
本城久司

「最近、夜トイレが近くなって…」、「くしゃみをすると、おしっこがもれるのよね…」など排尿症状を自覚する人は多いが、「恥ずかしい」、「歳のせいだ」と病院を受診せず、あきらめている人も多い。ある統計では、「急な尿意でトイレが我慢できない」とする症状（過活動膀胱）を有する人は、日本において約800万人もいると推定されているが、そういった症状がある人の20%程度しか受診しないとの調査報告もある。さらに、こうした症状にどう対処して良いかわからないと言う人も多い。

そうした背景にあって、一般市民に対する排尿トラブルの解決法を提示した著書を複数の著者で執筆した。一般市民だけでなく、パラメディカルの諸氏ならびに、医療系学生の一読の書として位置づけており、タイトル通り排尿症状をわかりやすく理解するには最適の書と言える。

一方、排尿症状に対する書籍において、「鍼灸治療」の詳細が書かれている本は数少ない。本書は「排尿症状に対する鍼灸治療」についてもわかりやすく解説し、排尿症状に対する鍼灸治療の啓蒙につながれば幸甚である。

幅広い読者を対象に、排尿症状の病態とその対処法について書かれた本書。本学学生並びに本学関係者の一読をお勧めしたい。

「四肢のモーション・パルペーション」

科学新聞社 2001年刊（上巻）
256p 27cm　7,980円
科学新聞社 2003年刊（下巻）
224p 27cm　7,560円

保健医療学部
応用柔道整復学Ⅰユニット
中川貴雄

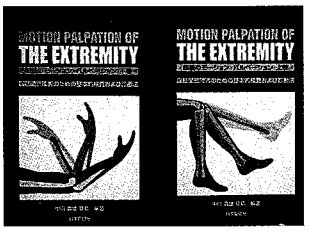
本書の表題である「四肢のモーション・パルペーション」とは、“四肢関節における動きの触診法”という意味です。四肢関節をさまざまな方向に動かし、その“可動性”の有無を検査する方法です。従来、一般に行われている触診法は、"患者が動かない状態での触診法"であり、英語ではスタティック・パルペーションと呼ばれています。

“可動性”というのは関節の“可動域”とは異なる運動です。一般に関節可動域とは、自分の意志で動かすことのできる自動運動域のことです。関節可動性とは、自分の意志では動かすことができないけれど、他動的には動かすことのできる自動運動域を超えた領域に存在する運動領域で“関節遊び運動”とも呼ばれています。

患者が関節痛や関節機能障害を訴えているにもかかわらず、整形学検査、神経学検査、臨床検査、画像診断を行っても何の異常も認められない。こんな場合、この可動性（関節遊び運動）の異常が原因であることが多いのです。この可動性（関節遊び運動）の異常の有無を検査する方法がモーション・パルペーションです。

この検査法は、アメリカではカイロプラクティック、オステオパシー、理学療法で、関節の特殊検査法として広く知られています。しかし、日本ではほとんど知られていない関節の検査法です。

本書に掲載の検査法は、私が、アメリカのロスアンゼルス・カイロプラクティック大学で教鞭を執っていたときに研究し、実際に臨床に使い有効であった検査法をまとめたものです。上巻は下肢関節について、下巻は上肢関節について解説しました。



現在、私は、本書を教科書として、当大学の柔道整復学科でこの関節可動性の検査法とその治療法を教えています。

特別寄稿1

学習について再考

看護学部　母性看護学ユニット　藤田峯子

私は地域のコーラスグループに所属して余暇を楽しんでいます。「第二の人生」について考えたとき、毎日を楽しくかつ人との交流を続けるには、コーラスが一番と軽い気持ちではじめました。当初は音楽用語の知識不足や指揮者の意図が理解できませんでした。基本は暗譜ですが、加齢で記憶力の減退に加え注意も散漫し暗譜に苦労しています。

たまたま『スピリチュアリテイ成長の道』（リチャード・J・フォスター著、中島修平訳）を読んでいた中に「人からのみ学ぶ者は魂のない知識という肉体を得、書物からのみ学ぶ者は肉体のない魂を得るであろう。見たものに観察を加え、読んだことに考察を加える者は知識にいたる正しい道にいる。他者の心をこまやかに読み取る者はみずからの心をも顧みる」とカレブ・コルトンが述べている箇所があります。医療に携わるものとして、また学習意欲が低下している私には示唆に富んだ言葉であると思いましたので本書を参考に、今一度学習について考えてみました。

学習のプロセスは人（教師）や書物から学んだものを理解し分析して解説までできるようになることで、「集中」と「認知」が必要になります。学習には聴講や読書（文献）による言語的な学習方法と、自然の観察や日常的な出来事における人間の行動の微細な観察を通して行う非言語的な学習方法があります。特に人を対象にする私たちは起こっている状況や出会いなどを注意深く観察して、その本質を認知し理解・分析して考察します。これを繰り返すことで、思考が習慣化されていくと思います。前掲書は、学習には「集中」「理解」「考察」「反復」が大切な要素になると指摘しています。加えて技術を提供する私たちは「実習」も重要な要素になります。「実習」とはある特定の体験であって、対象への注意深い観察を通して一定の方法で思考することです。例えば、実習で学ぶとき、対象者の心身を詳らかに観察することで、何かを感じとり、それに既存する知識を駆使して計画を立て実行します。そして知識不足に対しては指導者の助言や書物により、知識を蓄積させていきます。このプロセスに「集中」と「認知」と「繰り返し」がともなうと、思考が習慣化され実習における学習効果があがると思います。

学習している事柄に集中して注意を集めることは、脳の前頭葉を刺激して精神作用が活発になり外部刺激の一つ一つが記憶されていきます。目的を一つにしぼり、特定の方向へと精神作用を繰り返しおこなう洞察力は、対象をより理解でき、続いて的確な判断へ導く「考察」をすることにより学習内容が意義深いものとなります。つまり自分が学習していることの意味を熟考するとき、物事を新しい視点で見、聞き、読むことができるようになると思います。

前掲書は、「読解には『経験』『他の書物』『他の人々との討論』という付随的な補佐が必要である。」と述べていますが、中でも実習による経験は、観察と書物を通して解釈し関係づけられる唯一の方法だと思います。理解と考察が加えられた体験こそが、学習意欲を啓発してくれるでしょう。

私は歌詞の暗記を通して「学習の要素」を考えてみました。散歩や乗物の中で繰り返しテープを聴き、作詞者の思いや行動など特定の方向に精神を集中させ、自分なりに作者の心を読み取ることで暗譜ができました。学習には集中と反復が如何に大切かあらためて認識させられました。

特別寄稿2

「第29回北京オリンピック競技大会柔道競技に参加して」

短期大学部　保健体育ユニット　林　弘　典

2008年8月9日～15日に開催された第29回北京オリンピック競技大会柔道競技に日本柔道の研修団役員として参加しましたので、その活動について報告いたします。

日本チームは、代表選手、監督、コーチ、トレーナー、ドクターなど大会に直接関係する者で編成された選手団（30名）とそれを支援する者（代表選手の練習相手を行う選手、ジュニアコーチ、栄養士など）で編成された研修団（37名）の2つに分かれました。これに全日本柔道連盟の事務局員や関係者を合わせると全部で約100名になりました。

通常、全日本柔道の活動では、選手、監督、コーチ、サポートスタッフの活動を円滑にするために、男女に1名ずつ総務コーチが配置されています。しかし、今大会は参加人数が多かったために、男子総務コーチが選手団を、女子総務コーチである私は研修団をサポートすることになりました。総務コーチは役員や選手のIDの発行や行動の調整、マスコミの対応などあらゆる業務を行い、さまざまな問題に対応します。今回は悪天候で行きと帰りの飛行機の到着時間が大幅に遅れたり、荷物検査で当初の予定が遅れるという問題がありました。また、研修団の宿舎において、大規模な停電が起こったり、トイレやシャワーの水が出なくなったり、選手が部屋に閉じこめられるなどの問題が発生しました。しかし、総務コーチは常に何らかのトラブルが起こることを想定して行動しているので、これらは大きな問題ではありませんでした。

8月5日、北京空港に到着後、選手団は選手村へ、研修団は宿舎へ移動しました。その後、研修団は2グループに分かれ、私は研修団の選手8名とともに日本が独自に使用する練習会場に行き、畳168枚（14m×24m）を設置しました。畳の裏全面に滑り止めがついていたために、畳を思うように動かせず、大汗をかきながら設置に3時間ぐらい掛かりました。もう1グループの栄養士やジュニアコーチは、練習で使用する飲料水などを買いに行きました。後日、私も何度か栄養士とともに飲料水や食料品を買いに行きましたが、1度に500mlの24本入りを10ケースぐらい買いました。なお、ドーピングに影響のないように、栄養士が事前に調べた安全なメーカーのものが選ばれていました。

大会は8月9日から毎日男女1階級ずつ行われるために、初日から大会会場で試合をする者と練習会場で調整練習する者の2つに分かれました。私は練習会場での調整練習に参加し、その後に研修団選手とともにバスで宿舎に戻ってから大会会場へ日本選手の応援に行くという毎日でした。研修団の選手は代表選手の練習（打込や投込、乱取など）を受けたりしながら、自分の柔道衣や代表選手の柔道衣を洗濯したりなどの雑務に追われる大変な毎日でした。また、栄養士は大会当日から4時に起床し、代表選手の朝食（お弁当）を作り、これを7時までにジュニアコーチが連盟でチャーターしたバスで40分離れた選手村へ届けに行きました。このように、代表選手が試合でベストを尽くせるように、裏では研修団が一生懸命に働いています。

男子は7階級中、金メダル2個という厳しい結果でした。女子は7階級中、金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル2個と納得のいく結果ではありませんでした。しかし、女子については、初日に金メダルが確実視されていた谷亮子が銅メダルに終わり、総崩れになる危機を迎えましたが、全員が一丸となって大会に臨むことができていたために、何とか乗り越えることができました。このことについて、後日開かれた女子強化委員会で、「柔道は個人競技であるが、チームで戦うことが絶対不可欠である」と総評した日蔭暢年監督の言葉が印象に残りました。また、組織における結束力の重要性を再認識しました。

最後になりましたが、日本柔道の強化活動にご理解をいただきました谷口理事長、中川学長、山﨑教授に心よりお礼を申し上げます。また、いろいろとご迷惑をお掛けしました教職員や学生の皆様にも感謝いたします。

新着医学系図書・視聴覚資料一覧

（平成19年1月～12月収蔵分）

書名	著者名等	出版社
鍼灸事故防止マニュアル	清野充典	興仁舎
P.ノジエの耳介医学概論	ポール F.M.ノジエ原著	谷口書店
P.ノジエ耳介反射点便覧 第2版	Paul F.M.Nogier	谷口書店
スポーツ鍼灸ハンドブック 経絡テストの実際とその応用	向野義人 編著	文光堂
鍼灸医療安全ガイドライン	尾崎昭弘 編集ほか	医歯薬出版
レディース鍼灸ーライフサイクルに応じた女性のヘルスケア	矢野 忠 編著	医歯薬出版
新しい鍼灸診療	北出利勝 編集	医歯薬出版
臨床鍼灸治療学	西條一止	医歯薬出版
図解基本術式 あん摩 マッサージ 指圧による全身調整	森 英俊 編著	医歯薬出版
経絡テストによる診断と鍼治療	向野義人	医歯薬出版
鍼のエビデンス 鍼灸臨床評価論文のアブストラクト	津谷喜一郎 監訳	医道の日本社
受験ポイントマスター「共通科目編」柔道整復・あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう	執筆小委員会／影山照雄 監修	医道の日本社
受験ポイントマスター「基礎科目編」柔道整復・あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう	執筆小委員会／影山照雄 監修	医道の日本社
受験ポイントマスター「専門科目編」柔道整復・あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう	執筆小委員会／影山照雄 監修	医道の日本社
経絡図譜「潜象界からの診療」実践編	加藤淳／飯泉充長／有川貞清 監修	高城書房
霊枢 小曽戸丈夫新釈	小曽戸丈夫 新釈者	ほかたにぐち書店
素問 小曽戸丈夫新釈	小曽戸丈夫 新釈者ほか	たにぐち書店
鍼灸禁忌マニュアル	矢野忠 編集／江川雅人 執筆／尾崎昭弘 ほか	医歯薬出版
臨床鍼灸学を拓く-科学化への道標	西條一止	医歯薬出版
鍼灸臨床マニュアル	北村智／森川和宥	医歯薬出版
難経 小曽戸丈夫新釈	小曽戸丈夫 新釈者	たにぐち書店
東洋医学見聞録 中巻 初心者でも再現性がある鍼灸治療の実際	西田皓一	医道の日本社
東洋医学見聞録 下巻 初心者でも再現性がある鍼灸治療の実際	西田皓一	医道の日本社
エビデンスに基づく変形性膝関節症の鍼灸医学	矢野忠 編集代表ほか／全日本鍼灸学会 編集	医歯薬出版
Greenの手の外科手術 第4版 Vol.1	Green DP ほか	診断と治療社
はりきゅう基礎技術学	有馬義貴	南江堂
Basics of acupuncture 5th edition	Gabriel Stux／Brian Berman／Bruc	Springer Medizin Verlag 0
Acupu0ncture A3 IN1 Medical Reference Medical Dictionary Bibliography	James N.Parker／Philip M.Parker	ICON Health Publications/
Integrative medicine Second edition	David Rakel	Saunders
末梢神経疾患、筋疾患、循環障害	越智隆弘 総編集	中山書店
整形外科手術第11巻ーB神経の手術	黒川高秀 総編集	中山書店
あなたの膝痛はこれで治せる 諦めないで!必ずよくなります!	伊藤晴夫ほか	二見書房
関節可動域制限-病態の理解と治療の考え方	沖田 実	三輪書店
外反母趾 切らずに治す特効法 自宅で治せる簡単テーピング療法	笠原 巌	主婦と生活社
運動療法学	市橋則明 編集	文光堂
急性期リハビリテーションマニュアル ポケット版	マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部	三輪書店
外反母趾を自分で治す本	青木孝文	マキノ出版
操体臨床への道しるべ ー快適感覚に導く診断と操法ー	三浦寛	医道の日本社
標準整形外科学 第10版	鳥巣岳彦 総編集ほか	医学書院
変形性関節症-最近の知識	「整形外科」編集委員 監修／中村孝志 編集	南江堂
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション-上肢	整形外科リハビリテーション学会 編集	メジカルビュー社
自宅でできる運動療法 ジムに行けなくても自宅で簡単に出来る理学療法のパーフェクトガイド	ケイト・シーヒー／ハーパー保子 翻	産調出版
図解骨折治療の進め方 第3版	Rourth Mcrac ほか	医学書院
入門運動器の超音波観察法	日本超音波骨軟組織学会 編集	医歯薬出版
多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存料法-刷新的理学療法-	井原秀俊 編集ほか	全日本病院出版会
痛い腰・ヒザ・肩は動いて治せ	島田永和	朝日新聞出版
図解骨折治療の進め方 第3版	Rourth Mcrac ほか	医学書院
肩関節外科の要点と盲点	高岸憲二 編集／岩本幸英 監修	文光堂
柔道整復師国家試験 傾向と対策2009	柔道整復師教育研究会 編集	南江堂
肩関節検査法	エレンベッカー ほか 監	西村書店
むち打ち損傷ハンドブック 第2版-頸椎捻挫から脳髄液減少症まで-	遠藤健司 編著	シュプリンガー・ジャパン

変形性膝関節症-病態と保存療法	古賀良生 編集	南江堂
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション-下肢・体幹	整形外科リハビリテーション学会 編集	メジカルビュー社
運動器の生物学と生体力学	越智隆弘 総編集ほか	中山書店
整形外科的理学療法-基礎と実践- 原著第2版	Gary A.Shankman／鈴木勝 監訳	医歯薬出版
安全で確かな与薬 新人ナース・指導者必携!	高屋尚子 編集／日本看護協会教育委員会 監修	インターメディカ
看護学大辞典		メヂカルフレンド社
グループワークで学ぶ家族看護論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ	小林奈美	医歯薬出版
ペーパー・ペイシェントで学ぶ教える28の事例演習	坪倉繁美 編	医学書院
わかりやすい看護過程		照林社
疾患と看護過程実践ガイド 改訂版	長谷川雅美 監修	医学芸術新社
看護学学習辞典 第3版	大橋優美子 監修／ ほか	学習研究社
地域看護学 三訂	津村知恵子 編著	中央法規出版
やってみよう!基礎看護技術 改訂2版	池西静江 編集	メディカ出版
ポッター&ペリー看護の基礎-実践に不可欠な知識と技術	パトリシア・A・ポッター ほか	エルゼビア・ジャパン
看護と法律のはなし	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア
看護学生のための看護クイックレファレンス 第2版	池西静江 編集／石束佳子 編集	照林社
看護師・研修医のための急変対応101の鉄則	石松伸一 編著	照林社
看護学生のためのレポート書き方教室	江原勝幸 編著	照林社
学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術	川島みどり	医学書院
基本から学ぶ看護過程と看護診断 第6版	ロザリンダ・アルファロ-ルフィーヴァ	医学書院
系統別看護師国家試験問題集 解答と解説 2009年版	「系統看護学講座」編集室 編	医学書院
医療安全ワークブック 第2版川村治子医学書院		
ケアの根拠 看護の疑問に答える151のエビデンス	道又元裕 監修	日本看護協会出版会
ここからはじめる!看護国試必修対策テキスト	さわ研究所 編者	啓明書房
これならできる看護研究	藤田和夫	照林社
院内教育プログラムの立案・実施・評価	舟島なをみ 編集	医学書院
カルペニート看護診断マニュアル 第4版	リンダ・J・カルペニート=モイエ	医学書院
看護師国家試験ココがよくでる!重要頻出 '09年版	熊谷智子 監修	成美堂出版
根拠がわかる基礎看護技術	岡崎美智子 編集	メジカルビュー社
根拠がわかる成人看護技術	大池美也子 編集	メジカルビュー社
根拠がわかる母性看護技術	北川眞理子 編集	メジカルビュー社
まとめてわかる看護学概論 改訂2版 用語理解・レポート学習	小山敦代 編集ほか	メディカ出版
超入門事例でまなぶ看護理論 新訂版	竹尾恵子 監修	学習研究社

他

（視聴覚資料）

看護ケアに役立つリラクセーション法 Vol.1	小板橋喜久代 原案監修	医学映像教育センター
看護ケアに役立つ指圧・マッサージ Vol.2	兼宗美幸 ほか	医学映像教育センター
ライフヒストリー統合失調症 大石洋一さんの場合	渡部鏡子 原案監修	医学映像教育センター
病院前外傷患者への観察・処置法	田中秀治 原案監修	医学映像教育センター
小児白血病の検査と治療	中垣紀子 原案監修／加藤剛二 学術協力	医学映像教育センター
採血 輸液を受ける子どもへの援助	中垣紀子 原案監修／加藤剛二 学術協力	医学映像教育センター
骨髄穿刺 腰椎穿刺を受ける子どもへの援助	中垣紀子 原案監修／加藤剛二 学術協力	医学映像教育センター
VDT症候群の予防と対策 職場のパソコン・VDT作業における健康管理	宮尾 克 監修／PHP研究所 制作・著作	PHP研究所
ストレスを正しく理解しよう	山本晴義 監修・解説／PHP研究所 制作・著作	PHP研究所
ストレスの予防と解消法	山本晴義 監修・解説／PHP研究所 制作・著作	PHP研究所
メタボリックシンドローム-あなたは大丈夫!?	松澤佑次 監修／PHP研究所 制作・著作	PHP研究所
母乳哺育を促進する乳房ケア	石渕夏子 監修／鬼塚薫 指導	ビデオ・パック・ニッポン
退院指導	石渕夏子 監修／鬼塚薫 指導	ビデオ・パック・ニッポン
治療家のための5分でできるSPAT ［頸椎 胸椎編］操体法を基盤においた骨格矯正法	鹿島田忠史 出演・監修	医道の日本社
胃切除術を受けた患者の看護事例	吉武香代子 監修ほか	医学映像教育センター
もっと自由な出産を フリースタイル出産の介助	杉山富士子 監修・指導ほか	三輪書店
誕生をめぐる新たな動き		メディアパーク

図書館からのお知らせ

（図書館利用上のマナーについて）

大勢の人達が利用する図書館では、皆さん方に快適な環境の中で資料を閲覧して頂くため、利用上のルールを設けています。
「自分さえ良ければ」・「自分くらいは」という自分本位の考え方でルールを無視されますと他の利用者の迷惑となります。
図書館利用上のルールについては、図書館ガイダンス等でご説明をし、館内掲示や学生便覧にも掲載しておりますが、ルール違反の中で特に気が付いた点を下記に列挙しましたので、お互いに注意を払い快適な閲覧環境の保持に心がけましょう。

1、館内への持込物について

① 飲食物

コーヒーカップやペットボトル等を館内（荷物棚や机の上）に持込でいる人を見かけます。閲覧資料や他の人の持ち物等の汚損原因にもなりますので飲食物は持ち込まないで下さい。

② カバン・袋類

資料の無断帯出防止、閲覧スペースの確保の為、カバン・袋類は荷物棚に置き、閲覧場所（ゲート内）へは持ち込まないで下さい。

なお、貴重品は携帯し、各自で管理して下さい。

③ 傘

荷物棚に「傘の持込禁止」の掲示をしているにもかかわらず、雨の日の傘の持ち込みが絶えません。傘を持ち込まれますと棚の荷物や施設の汚損、および通行の妨げにもなり危険ですので傘は館内へは持ち込まないで下さい。

2、本は元の場所へ

開架・閉架を問わず、書架から取り出した本は必ず所定の場所（分類記号順）に正しく戻して下さい。所定外に戻すと全蔵書の中からそれらを探し出す事は至難の業になり、貸し出し・閲覧に支障を来たすことになります。

3、資料の無断帯出

貸し出し手続きを行わないで資料をゲート外に持ち出してはいけません。無断帯出理由に「うっかり持ち出した」と言う理由が多々あります。

無断帯出防止のためゲートでの警告音や持ち込み許可、退館時チェックを厳守して頂くことで「うっかり持ち出し」等を防止できます。

4、私語、携帯電話の使用

特に試験期間中など、利用者の多い時は私語や携帯電話の呼び出し音等で、館内の静寂が確保できない時があります。ミーティングは自習室等で、携帯電話はマナーモードにし、通話は館外でして下さい。

平成19年度の収書・蔵書状況

- 収書冊数：一般図書825（28）、製本雑誌576（251）、視聴覚資料49（0）合計1,450（279）
- 蔵書冊数：一般図書49,570（9,891）、点字図書1,404、製本雑誌13,014（6,517）、視聴覚資料 2,235（123）　合計66,223（16,531）
- 雑誌タイトル数：学術雑誌119（63）一般雑誌7　合計189（63）

（　）は外国書で内数。

平成19年度図書館利用状況

1、貸出件数

各学部合算（延べ人数）

	区分	1年生	2年生	3年生	4年生	院生	卒研生	その他	教職員	小計
H19年度	冊数	321	743	401	979	1,001	—	79	757	4,281
	%	8	17	9	23	23	—	2	18	100
	人数	219	506	263	626	333	—	36	229	2,212
	%	10	24	12	28	15	—	2	10	100
H18年度実績	冊数	445	654	446	588	1,174	39	71	744	4,161
	%	11	16	11	14	28	1	2	18	100
	人数	288	468	293	369	380	15	37	223	2,067
	%	14	23	14	18	18	1	1	11	100

＊学部生の長期貸出（上記表の内数）

受付け期間	鍼灸	保・短	看護		鍼灸	保・短	看護
夏季休業（7月23日～9月10日）	75	34	0	H18年度実績	75	34	0
	49	22	0		49	22	0
冬季休業	—	—	—		89	23	3
	—	—	—		57	12	1
春季休業（1月18日～3月25日）	227	48	12		170	40	11
	138	28	8		110	22	5
合計	508				445		
	309				278		

2、閉架資料利用件数（閲覧・貸出）

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	小計	H16年度実績
冊数	68	212	369	905	24	1,578	1,263
人数	48	150	216	597	13	1,024	811

3、文献複写（図書館相互協力）　（平成18年度実績）

- 受付件数　161件、524　枚　　127件、433　枚
- 依頼件数　46件、242　枚　　98件、391　枚

4、休日開館（土曜日）の利用状況　（平成18年度実績）

- 開館日数　37　日　　34　日
- 利用人数　42　人　　79　人

編集後記

本年度の図書館報の「特別寄稿」は、母性看護学ユニットの藤田峯子先生と保健体育ユニットの林弘典先生にお願いいたしました。藤田先生には学習に関する話をお寄せいただきました。われわれ医療従事者が意味のある知識を得るためには、読書によって得られるものと直接体験することによって得られるものとを統合し発展させることが必要でしょう。勉学の本質に迫る内容ではないかと思います。林先生には、昨年北京で行われたオリンピックの柔道競技に役員として参加された時の体験談をお寄せいただきました。スポーツ競技において選手が実力を発揮するための裏方の役割や苦労がよく分かり、興味深く拝読しました。また本学に所属される方がオリンピックのような国際的大会で活躍されていることは、関係者の一人として大変誇りに思います。「自著を語る」のコーナーは、今年は本を書かれた方が多かったため、4人の先生方にお願いいたしました。いずれの本も実際の臨床に役に立つ内容のものと思われます。ぜひ座右に置き活用していただきたいと思います。一読の上疑問点があれば著者の先生に直接お尋ねすればいいでしょう。より深い理解が得られることと思います。また今年は「私のお薦めの一冊」のコーナーがありませんので、私が巻頭言で外国語の学習法に関する本の紹介をさせていただきました。お忙しい中ご寄稿いただきました先生方には厚くお礼申し上げます。

（中尾昌宏）